

ストーリーの構成文化財一覧表

状況 (※1)	番号	文化財の名称 (※2)	指定等の状況 (※3)	ストーリーの中の位置づけ (※4)	文化財の所在地 (※5)
既	1	こうのせすみよしじんじや 神瀬住吉神社	県重文 (建造物)	航海の神として、球磨川を行き来する藩主や船頭たちの信仰を集めてきた神社。	球磨村
既	2	しろやまかんのんどう 城山観音堂の じゅういちめんかんのんぼさつぞう 十一面観音菩薩像	村有形 (彫刻)	戦国期の相良氏当主が造らせた仏像で、周辺住民が代々大切にしてきた仏様。	山江村
既	3	たかてらいん 高寺院	国重文 (彫刻) ほか	相良氏が滅ぼした矢瀬氏による草創ながら、代々の相良氏が手厚く保護した寺院。	山江村
既	4	やまだだいおうじんじや 山田大王神社	国重文 (建造物)	相良氏が、滅ぼした平河義高の二男の藤高の怨霊鎮魂のために建立した神社。	山江村
既	5	いのくちはちまんじんじや 井口八幡神社	県重文 (建造物) ほか	領主相良氏の「戦の神」として代々保護を受けてきた神社。	人吉市
既	6	ひとよしおんせん 人吉温泉	未指定) (無民)	戦国時代の12代相良為続が湯治したという記録が残る人吉球磨で最古の温泉があり、民衆も疲れを癒した。	人吉市
既	7	あおいあそじんじや 青井阿蘇神社	国宝 (建造物)	領主相良氏の保護を受け、江戸時代には人吉藩領内の惣鎮守として藩主・民衆の信仰を集めた神社。	人吉市
既	8	ウンスンカルタ	県重無民	江戸時代中期に幕府に禁制され廃れた中で、全国で唯一、人吉藩領のみ遊戯法が継承された。現在は人吉市の民間団体が継承する。	人吉市
既	9	おいかみじんじや 老神神社	国重文 (建造物)	領主相良氏の氏神として保護され、周辺住民から「老神さん」として親しまれ信仰を集める神社。	人吉市
既	10	ひとよしじょうあと 人吉城跡	国史跡	球磨郡を統一した相良氏が、戦国期以降、江戸時代を通じて、代々居城とした城。御館前の堀に架かる石橋が完成した時、郡内の臼太鼓踊り組が40組終集結し、お祝いのため12日間にわたり踊りを披露し、藩主と領民、共に祝った。	人吉市
既	11	だいしんじ 大信寺	県重文 (彫刻) ほか	22代相良頼喬母の菩提寺。この母が帝王切開の末、頼喬を出産し亡くなったと伝わり、後に安産を願う民衆の信仰を集めた。	人吉市

既	12	がんじょうじ 願成寺と相良家墓 地	国重文（彫刻）ほか	領主相良氏の菩提寺の第一で、江戸時代は郡内の宗教世界を束ねる地位にあった格式高い寺院。裏に代々当主の墓が集められ、藩主の命日には庶民の参拝も盛んに行われた。	人吉市
既	13	いわやくまのぎじんじゃ 岩屋熊野座神社	国重文（建造物）	領主相良氏による度々の修造が行われた神社。熊野信仰の広がりとともに民衆の信仰を集めた。	人吉市
既	14	ひがしまたにしまたあそ 東 俣・西 俣阿蘇 じんじゃ 神社	未指定（建造物） ほか	江戸中期、五木村の民衆との結びつきを重視する藩主が代参を続けた神社。	五木村
既	15	あまみやじんじゃ 雨宮神社	未指定（建造物） ほか	雨乞いに霊験があるとして、領主・民衆から信仰を集めた神社。戦国期の雨乞いのエピソードが特に有名。	相良村
既	16	としますがわらじんじゃ 十島菅原神社	国重文（建造物）	この地域で最大の天神様として、領主から民衆まで信仰を集めた神社。	相良村
既	17	いざおくまのぎじんじゃ 井沢熊野座神社	県重文（建造物）	16代相良長唯(義滋)により再興された神社。民謡「球磨の六調子」にも歌われるほどの名所として、民衆に親しまれた神社。	相良村
既	18	このもとじんぐう 木本神宮	町有形（建造物）	相良氏が滅ぼした平川氏の創建ながら、相良氏代々が手厚く保護し、民衆に守られてきた神社。	錦町
既	19	しょうふくじかんれんいざんぐん 勝福寺関連遺産群	国重文（彫刻）ほか	勝福寺は相良氏入国以前の在地豪族の菩提寺ながら、相良氏による保護を受け続けた寺院。	あさぎり町
既	20	すえあそしやかどう 須恵阿蘇釈迦堂	未指定（建造物） ほか	在地豪族の須恵氏が創建し、相良氏代々が保護した。釈迦三尊像が民衆に大切に守られ続けている。	あさぎり町
既	21	やまのうえはちまんじんじゃ 山上八幡神社	町有形（建造物）	戦国時代に滅ぼした上村氏を供養するために、安土桃山時代になり相良氏が建立した神社。	あさぎり町
既	22	おうぐうじんじゃ 王宮神社	県重文（建造物）	多良木地域の鎮守として、相良氏の手厚い保護を受け民衆の信仰を集めた神社。萱葺屋根の楼門は日本最古級。	多良木町
既	23	しょうれんじあみだどう 青蓮寺阿弥陀堂	国重文（建造物）	鎌倉時代以降の多良木相良氏代々の菩提寺で、民衆の信仰を集めた。郡内に残る中世的な景観の代表的な場所の一つ。	多良木町
既	24	おおたけじゅうたく 太田家住宅	国重文（建造物）	江戸時代、藩の許可を受け焼酎作りを行っていた民家。焼酎文化の盛行を示す。	多良木町

既	25	多良木相良氏 ^{た ら ぎ き が ら し} 関連 ^{かんれん} 遺産群 ^{いさんぐん}	県重文（建 造物）ほか	相良氏が鎌倉時代に下向した後、在地に受け入れられるまで苦心した時期の館跡と、その当時、民衆のために開削した灌漑用水などの史跡。	多良木町
既	26	久米治頼神社 ^{く め は り よ り じ ん じ ゃ}	町有形 （建造物）	当主に反乱を起し滅ぼされた相良治頼とその母を供養するため、戦国時代に建立された神社。	多良木町
既	27	槻木大師堂の 弘法大師像 ^{つき ぎ お たい し だう} ^{こう ぼう だ い し ぞう}	県重文 （彫刻）	郡内における民衆の大師信仰の広まりを受け、室町時代前期に相良氏を願主として造られたもの。	多良木町
既	28	城泉寺・八勝寺 阿弥陀堂 ^{じょう せん じ はっ しょう じ} ^{あ み だ だう}	国重文（建 造物）ほか	在地豪族久米氏が建立したといわれるが、その後も相良氏や民衆の厚い保護・信仰を受けて、堂舎と本尊、石塔群が中世の景観を今に伝える。	湯前町
既	29	御大師堂 ^{お だ い し だう}	県重文 （建造物・ 彫刻）	郡内で領主から民衆まで広まっていた大師信仰を受け、大切に守られてきた大師堂と御大師様。	湯前町
既	30	生善院観音堂及 び本堂と庫裏 ^{しょう ぜん いん かん の ん だう} ^{ほん だう と く り}	国重文 （建造物） 村指定（建 造物）	人吉藩化け猫騒動にちなむ観音堂。市房山神宮参詣時には藩主が立ち寄った。「狛猫」が参拝客を迎える。	水上村
既	31	市房山神宮本宮 ^{いち ぶ さ や ま じ ん ぐ う ほん ぐ う}	未指定 （建造物） ほか	郡内最高峰の市房山を信仰の対象とした神社。郡鎮守であり、歴代の相良氏を始め、民衆も「お嶽さん参り」と呼んでしばしば参詣した。	水上村
既	32	球磨焼酎 ^{く ま し ょ う ち ゅ う}	未指定 （無民）	人吉球磨地域において、江戸時代では貴重だった米を主原料としての醸造が相良氏によって認められ、庶民に至るまで愛飲された酒。450年以上の歴史を誇る。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
既	33	百太郎溝と幸野溝 ^{ひゃく たら う み ぞ こう の み ぞ}	未指定 （無民）	人吉藩領内の米生産を支えた長大な灌漑用水。藩や地域住民により長い年月をかけ開削事業が行われ難工事の末に完成した、現役の用水である。この2つの用水は、平成28年11月8日「世界かんがい施設遺産」に登録された。	錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村
既	34	人吉球磨の民謡 ^{ひと よ し く ま み ん じ ゅ う}	未指定 （無民）	人吉球磨地域の民衆に長く唄われてきた民謡は、人々が集まると誰ともなく自然と唄われ始める。特に宴会で焼酎が始まると終わりを知らない。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
既	35	焼酎墓 ^{し ょ う ち ゅ う ぼ か}	未指定 （有形・建 造物）ほか	酒好きの人間であったことを思わせる戒名や、墓石の笠が盃であるなど、焼酎文化を伝える墓。	人吉市・錦町・多良木町
既	36	球磨拳 ^{く ま けん}	多良木町無 民ほか	じゃんけんのルーツとも言われる拳遊び。宴会の余興としては、勝負に負けた方が焼酎を飲むのだが、焼酎飲みたさにわざと負ける者もいたとか。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五

					木村・山江村・球磨村
既	37	こうしんしんこう こうしんとう 庚申信仰と庚申塔	県重民ほか	戦国期以降に流行する庚申信仰に係る庚申塔。他地域のものより巨大な庚申塔が、数多く人吉球磨地域に現存している。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
既	38	さがらさんじゅうさんかんのん 相良三十三観音めぐり	人吉市無形民俗ほか	人吉藩家老井口氏により藩内に三十三観音が選定され、御詠歌が作られて以後、各札所は地域住民の精神的な拠り所として信仰を集め続けている。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・山江村・球磨村
既	39	くまかぐら 球磨神楽	国重無民	青井阿蘇神社おくんち祭の宵宮奉納を皮切りに郡内43神社で奉納されてきた神楽。相良氏の厚い保護を受けた神楽の見物は民衆の娯楽でもあった。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
既	40	うすだいこおど 臼太鼓踊り	県重無民ほか	相良氏による武道奨励・士気鼓舞を目的に始められたとされる踊り。領民によって長く伝承され、現在も郡内各地で踊り続けられている。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
既	41	くまがわ 球磨川	未指定 記念物(名勝)ほか	相良氏は、水量が豊富な豊富な球磨川を交通および米や木材などの物資の輸送に大いに利用した。明治時代に入り鉄道運輸に取って代わられるが、水運の伝統は、現在の観光「くま川下り」に受け継がれている。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・球磨村
既	42	ながとめさがらし 永留相良氏 じょうかくぐん 城郭群	山田城跡 高城跡 村史跡	相良氏2代相良頼親を祖とする永留相良氏が人吉城に拠点を移すまで、勢力の伸張とともに築きあげた城が山田城・高城である。	山江村
既	43	おくんちまつり おくんち祭り	未指定 (無民)ほか	相良氏統治時から続く青井阿蘇神社の秋の例大祭。	人吉市
既	44	ひとよしはんこてきたい 人吉藩鼓笛隊	未指定 (無民)ほか	幕末に薩摩藩の影響を受け英国式兵制を取り入れた際に組織された鼓笛隊。音色から「ヒーロイロイ」と呼ばれ親しまれている。	人吉市
既	45	いわんじょうあと 岩城跡	未指定 記念物(史跡)	別名:木上城。江戸時代の『球磨絵図』にも記載がある中世山城で、在地豪族の平河氏の居城であった。13代相良長毎が城内に市房山神宮を勧請し木本神宮を建立、信仰のより所とした。	錦町
既	46	あらただいおうじんじゃ 荒田大王神社	町有形 (建造物)	相良氏が滅ぼした在地豪族の平河氏の霊を鎮めるために建立した神社。	錦町

既	47	あらたかんのんどう しゃか 荒田観音堂の釈迦 によらいぞう 如来像	釈迦如来像 県重文（彫刻）	相良氏入国前の在地豪族である平河氏が造立した と考えられる平安仏。	錦町
既	48	しゃりゆうけんぽう タイ捨流剣法	町無形 （古武道）	戦国時代、相良家家臣丸目蔵人佐長恵によって創 始された剣術。長恵は相良家の剣術指南役として 仕え、以後、相良家や藩士によって学ばれた。	錦町
既	49	うえむらさから し かんれん 上村相良氏関連 いさんぐん 遺産群	町史跡など	戦国時代、相良氏の庶流から本家を相続した上村 氏の城跡・墓等。	あさぎり町
既	50	しらがじんじゃ 白髪神社	未指定 （建造物） ほか	青井阿蘇神社の流れをくむ上村相良氏の氏神社。 安産または慈雨の神として、代々の相良氏女が懐 胎の節には安産祈願、干ばつの節は藩令をもって 雨乞い祈願がなされた。	あさぎり町
既	51	たにみずやくしどう 谷水薬師堂	町有形 （建造物） ほか	室町時代の創建と伝えられる上村氏の菩提寺を上 村氏滅亡後に相良氏が再興した堂。	あさぎり町
既	52	おかどめくまのざじんじゃ 岡留熊野座神社	未指定（建 造物）ほか	人吉相良氏第3代頼俊が、鎌倉時代後期の蒙古襲 来に際し、強敵を退け国家安定を祈り創建したと の由来を持つ神社であり、以後も、相良氏や家 臣・領民によって大切に守られてきた神社であ る。	あさぎり町
既	53	ふかだだいおうじんじゃ 深田大王神社 ふかだあそじんじゃ （深田阿蘇神社）	町有形 （建造物）	相良氏は、人吉球磨支配の過程において、在地豪 族の平河氏を滅ぼした。平河氏のうち盛高（義高 の長男）の霊を鎮めるために、相良氏が建立了た 神社。現在は、深田阿蘇神社に合祀されている。	あさぎり町
既	54	いちふさやまじんぐうげぐう 市房山神宮下宮 さとみやじんじゃ （里宮神社）	未指定（建 造物）ほか	市房山にある本宮まで登ることの出来ない人々が 詣でる神社。春の例大祭では「お嶽さん参り」に ちなむ祭礼が行われる。	湯前町
既	55	いちふさやまじんぐうちゅうぐう 市房山神宮中宮 いちのみやじんじゃ （一の宮神社）	未指定（建 造物）ほか	大同2年（807）に市房山神宮を造営する際に、仮 殿が置かれ、後に、その跡地に霧島神宮社の神を 勧請したのが一の宮神社である。当時の「お嶽さ ん参り」コースの一つで、市房山神宮本宮を目指 す藩主や領民の唯一の休憩場所としても利用され ていた。	水上村
既	56	たけお嶽さんまい お嶽さん参り	未指定 （無民）	領主相良氏が、領民に勧めた旧球磨郡内の最高峰 である市房山への参詣。	人吉市・錦町・あ さぎり町・多良 木町・湯前町・水 上村・相良村・五 木村・山江村・球 磨村

既	57	さがらしかんれんこどう 相良氏関連古道	未指定（史跡）ほか 一部は山江村史跡	人々が交流し、有形・無形の文化をもたらした人吉球磨に通じる古道。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
新	58	ひとよしくま 人吉球磨の やきもの	未指定 有形（美術工芸品） 一部は県史跡	上村焼や一勝地焼に代表される人吉球磨地域の陶磁器。上村焼のルーツは文禄・慶長の役に参陣した相良長毎が、朝鮮から陶工を連れ帰り生産されたことに始まるとも言われ、相良文化に育まれた個性的な陶磁器が生産された。 一勝地（球磨郡球磨村）での陶石原料の発見を契機に一勝地焼きが始まり、人吉藩内を中心に、一部は熊本藩の領域にも流通し、現在でも連綿と日常生活に使用されている。	人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村
新	59	いちふさすぎ 市房杉	未指定 （記念物・民族文化財）ほか	お嶽さん参りも行われる霊峰、市房山の市房杉は、樹齢1000年とも言われ、幹回りは数mにも及び、巨大な杉が立ち並ぶ様子は圧巻で、全体が神秘的で荘厳な景観である。 近世には、相良氏によって推奨された杉等の林業が発展し、林業を支える運輸形態は球磨川の水運が利用された。	水上村